

令和5年11月11日 SDG s 中学生議会 質問・答弁記録

【第3地区】

<質問・提案>

中学生議員（1人目）

大人の世界では、男女差別が減っているという認識があるようですが、中学生の私達にはそうは思えません。そのため、各学校では制服の選択肢を増やす、トイレの標識に工夫をする等、私達にできることをしています。

ですが、公益社団法人ガールスカウト日本連盟の「ジェンダーに関する女子高校生調査報告書」によると、半分以上が学校内で男女差別を感じる瞬間があると答えています。その瞬間とは、先生や同級生等に言われた「女の子だから」「男の子だから」というメッセージが一番多いそうです。

私は、今の対策だけでは、男女差別が減るとは思いません。江戸川区では、男女差別をなくす、今後の取り組みについて、どのようにお考えですか。

中学生議員（2人目）

こちらの学習用タブレット、数年前に配布されました。とても便利でよく活用しています。ですが、今は主に調べ物での検索サイト閲覧、マイクロソフトオフィスでの文書、パワーポイント、エクセルでの表計算等の作成、ミライシード（ドリルパーク）での予習や復習、テスト勉強等しか使っておりません。タブレットには入っていて、ホームボタンからすぐに確認することができるアプリでも、使ったことがなく、使用方法がわからず、活用できていないものがあります。

なので、学習用タブレットをもっと活用させてほしいです。タブレットに入っているアプリを使うことをはじめ、作曲、絵を書くこと、動画や画像の編集等、幅広い範囲でタブレットを活用できるようにしていくべきだと思いますがいかがでしょうか。

中学生議員（3人目）

学校での給食における食べ残しの食品ロス削減について、私はこの原因は好き嫌いが一番多いのではないかと考えます。

なので、学校の学習で給食に出される食材がどのようにしてつくられているかを知る機会を設け、食べられることへの感謝の意識を持つことで、好き嫌いが減り、食べ残し削減に繋がれると思います。

江戸川区での、特に、給食における食品ロス削減について、具体的にどのような改善策をお考えですか。

中学生議員（4人目）

現在、地球温暖化による異常気象が各地で発生している中で、地球環境に配慮したエアコンの設定温度は、夏場は28度、冬場は20度とされています。

しかし、区内の学校でのエアコンの設定温度の基準は、学校によってバラバラです。それに加えて、その学校の中でも、先生によって考え方に違いが生まれていることがあります。その弊害で、生徒は体調面や精神面で困惑することがあります。

そのため、地球環境と生徒の体調の両方を考慮したエアコンの設定温度の基準を決定し、江戸川区の小中学校のほか、区で運営している施設で統一していただきたいと考えているのですが、区としてはいかがお考えでしょうか。

中学生議員（5人目）

公園や街中を歩いていると、缶のごみやペットボトル、たばこが落ちているのをよく見かけます。僕一人で街中のごみを拾っていてもきりがありません。

しかし、グループワークを通して、花火大会後に、各団体の清掃活動、パトラン東京による地域清掃活動が行われているのを知って、いいなと感じました。

そこで、ボランティア活動を区の方から積極的に発信してほしいと思いました。理由は、多くの人の力があると、ポイ捨てがどれだけいけないものかを知ってもらい、また、ごみが多く減ると思ったからです。

江戸川区の方ではどのようにお考えですか。教えてほしいです。

中学生議員（6人目）

私は、江戸川区では、不登校支援のことについて、あまり区民の方々に認知されているようには思えません。僕の周囲の方々に、江戸川区が行っている不登校支援のことについて尋ねてみると「知らない」という答えが返ってきます。

この状況だと、もしかしたら、実際に不登校になってしまっている子や、その家族に、この支援が伝わっていないかもしれません。

江戸川区では、これからどのようにして不登校支援に関する情報を広めていこうと思われれますか。

中学生議員（7人目）

僕は小学校と中学校で、障害者の方のお話を聞いたことがあります。その機会に、自分が障害者の方とかけ離れている存在だということに気づきました。このままだと、共生社会の

実現に近づかないと思いました。

少子高齢化も進んでいる中で、障害者の方や高齢者の方をもっと身近に感じてもらうために、小中学校の授業の中で、体育館で講演会を行うことに加えて、クラスに来て、友達と話すような感覚で、その学校の生徒、障害者の方、高齢者の方が交流する場をつくることで、より身近に感じ、共に生活していこうという思いになると考えます。

なので、このような場を設けるべきだと考えます。いかがでしょうか。

<答弁>

齊藤区長

それではお答えをしてみたいです。

まず最初に、男女差別がまだあるんじゃないかということでございます。

本来であれば、全ての人が差別することなく平等で、性別にかかわらず、多様な個性や生き方が認められることは、社会にとってとても大切なことだと思っています。そのような多様性が認められる社会というのは、時代の変化にも柔軟に適応できると考えますし、新しい価値を創造することもできると考えています。

また危機に瀕した時の対応力も高いんじゃないか、そういうふうに思っています。

江戸川区も今、そこを目指しているんですけども、まだまだ男女の格差はあるというお話は私もその通りだと思っています。

具体的には、「ジェンダーギャップ指数」が毎年公表されておりますけれども、日本は146の国の中で、125位という数字でございます。男女格差が極めて大きい国と評価をされているところでございます。なぜそのようなことになるかということなんですけれども、やはり「男性は外で仕事をすべきだ」とか「女性は家で家事をするべきだ」そういった無意識の思い込み、性別による役割分担という考え方、これがあるんじゃないかというふうにも言われているところでございます。そのような思い込み、考え方にとらわれてしまいますと、自分自身の生き方を狭めてしまうことにもなるんじゃないかというふうに思っております。

本来であれば、男女にかかわらず、その人が持つ能力、個性が最大限発揮される社会というのが望ましいのは言うまでもないというふうに思っております。

江戸川区では、昨年になりますけれども、男女の平等と多様な生き方を認め合う社会の実現を目指す条例をつくりました。条例の名前が「性の平等と多様性を尊重する社会づくり条例」という名前なんですけれども、ここで、男女平等社会を実現するための様々な取り組み、この理念が描かれていますので、これをいかに実現するかという形で頑張っているところでございます。

区役所の中でも様々な物事を決めるときに、今日はたまたま、たまたまなんて言い方よく

ないな、男性が並んでいるんですけども、一応管理職の中には女性がたくさんいます。ちょっと今日福祉部門とか様々な部門の女性がいなかったんで、いつもこうではありません。様々な会議にですね、女性が一定割合以上参加するような取り組みなんかも行っているところがございます。

何が言いたいかっていうと、区民の半分は女性ですから女性の意見というのは区政の運営にも、必要なことだと思っていますので、色々な形で女性に参画をしていただいて、意見を言っていただく、そういったところも心がけているところがございます。

これから区役所全体で取り組んでいきたいと思いますので、また色々お気づきな点がありましたら教えていただければと思います。よろしく申し上げます。

齊藤区長

学習者用タブレットを幅広い範囲で活用については教育長から、学校給食における食べ残しの食品ロス削減についてのご質問も教育長からお答えをさせていただきます。

齊藤区長

地球環境に配慮したエアコンの設定温度についてです。

エアコンは当然必要だと思うんですけども、過度な使用は控えなければいけない、そのようにも思っています。我々が目標の目安としていますのが、夏は28度、冬は20度ということであります。それに合わせて、クールビズをやったり、ウォームビズをやるということでもあります。

ただですね、それがちょっと徹底されていないんじゃないかというようなことがございます。普通、外から帰ってきて、やっぱり最初の設定温度を低くしてしまうということは、確かにあるのかなというふうに思いますけれども、当初はそうであったとしても、ぜひ室温は28度になるような調整をしていただきたいというふうに思っていますし、これからは20度ということ、目安にしていきたい、それをやっぱり我々もしっかりお知らせをしていかなきゃいけないかなというふうに思っています。

今回のご質問の趣旨は、地球温暖化防止にも繋がる部分でございます、重要なご指摘だというふうに思っております。

今、地球温暖化防止のために、新しい国民運動で「デコ活」というのがございます。デコのデは、デカボ（デカーボナイズーション）、CO₂の削減、デコのコはエコ、これを組み合わせた造語ということでもありますけれども、企業や学校もそうですね、様々な団体が身近なところで、自分達でできることをやっていこう、そういったことを提案しておりますし、私達もそのような形でお知らせをしていければというふうに思っております。

まさにSDGs、持続可能な地球をつくっていくためには必要なことだと思っております。

すので、そのように取り組ませていただければと思っております。

齊藤区長

ごみのポイ捨てをはじめとする様々な環境問題について、これは行政だけでは到底解決することができないと思っています。

本当は行政だけで全部解決しますと言った方がカッコいいんですけども、それは残念ながら言えません。やはり区民の皆さんに協力いただいて、はじめてできる問題だというふうに思っております。区民全体で取り組んでいただきたい問題だというふうに思っています。

これまで、江戸川区、町会・自治会の皆さんと一緒に「環境をよくする運動」そういう運動の名前がありますけれども、区内で様々な環境問題を乗り越えてきました。

これから2100年にかけて、区の人口は3分の2から、2分の1になるというふうに言われております。もちろん区の職員も減りますし、お金も減っていきます。少子化もどんどん進んでいくと言われております。

そういった中で、ごみのポイ捨てに対しましては、みんながごみを捨てない気持ちを持って、解決に向けた取り組みに参加をしていただく、自らがそういった行動をしていただくということが大切だというふうに思っています。特に、やはり中学生の皆さんもそのような活動をしていただければこんなに嬉しいことはないと思っています。

清掃ボランティア、この情報を発信をしてほしいというようなご質問でございますけれども、それは私どもの持っている媒体、江戸川区が持っている媒体っていうのは、広報えどがわという区の冊子とですね、ホームページ、ほかにはチラシ、ポスターの掲示を掲示板で行う、そういったようなものが中心になってくるんですけども、そういったことをそういった色々な媒体で伝えていければというふうに思っています。

それに加えて、先ほどもちょっと触れさせていただきました、SDGsのアプリ「eito(エイト)」ですね、これ10月にリリースしたばかりなんですけれども、そういったところでも、活動をより参加しやすいような、そして参加してよかったなと思えるような工夫もしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

齊藤区長

続きまして、不登校に対する支援内容をどのように広めるか、生徒、障害者、高齢者の方と交流する場を多く、とのご質問につきましては、教育長からお答えをさせていただきます。

蓮沼教育長

まず初めに、学習者用タブレットを幅広い範囲で活用をという質問にお答えいたします。

私もこれまで小中学校で何度も授業を見させていただいておりますが、この学習者用タブレットを積極的に活用し、学習に取り組んでいる皆さんの姿を拝見し、嬉しくも頼もしくも感じています。

このタブレットは、皆さんの好奇心、探求心を掻き立てる、様々なアプリが導入されています。学校の授業や家庭学習においても、学年や学習内容に応じて、ミライシード「ドリルパーク」等のアプリを効果的に活用し、学力向上を図るとともに、ICTスキルや情報活用能力を身につけていってほしいです。

ただ、ドリルパークばかりで他のがちょっと利用できてないという、そういう要旨かなと思いますけども、その辺はしっかり考えていきたいなと思っていますところです。

このタブレットを姉妹都市であるハワイのホノルル市のエヴァマカイミドルスクールとの交流をオンラインで行う等の学習活動も始まっています。

更に、学校に足を運びにくい生徒に対してのオンラインでの学習参加にも、このタブレットが重要な役割を果たしているところです。

今後も中学生の皆さんの学習が充実するよう、ICT環境を整えていくとともに、ご指摘いただきました作曲、或いは絵を書いたり、動画を撮ったりというようなことで、個の学びにも繋がるようなアプリの活用を、更に現場で進めていってほしいなと思っていますところです。

本日校長先生もお見えになっているので、ぜひ校長会でもそういう話をしていただければ幸いです。

最後に、学びを深める上でも幅広く活用してもらおうと同時に、えどタブルールの約束をしっかり守って、おうちの人からも「正しく賢く使っているね」と言ってもらえるように、褒めてもらえるように、皆さんにも改めてお願いし、質問へのお答えといたします。

蓮沼教育長

学校給食における食べ残しの食品ロス削減についての質問でございます。

私も江戸川区の中学校で、実は10年間ほど学校給食にお世話になっていましたが、とてもおいしい給食が毎日楽しみでした。特に好きだった献立はエビクリームライス、ジャージャー麺、あげぱんとワンタンスープでした。皆さんはいかがでしょうか。

もちろん、提供された給食を感謝して食べ、全員が残さないようにすればこの問題は解決しますが、そう簡単にはいかず、現実的には、体調や体質、食欲の具合、好き嫌い等により、残菜が出てしまっているところです。

これに対して、各校でも、給食委員会が中心となり、色々なアイデアを出して食べ残しを

なくそうと努力していただいています。

また、栄養士さんや調理師の方々も、皆さんからのおいしいとの声を聞けるように、楽しみにできる給食を目指して頑張ってください。

昨年食育に力を入れている松江第四中学校の発表会では、安心、安全でおいしい給食をつくってくださる調理師さんの1日の仕事の様子を動画にして、全校で視聴し、調理師さんへの感謝や、食べ残しをしないよう心がけることの大切さについて学んでいました。実際にそういった動画を見て、食べ残しが減ってきているという成果も出ています。参考にしてほしいなと思います。

今後も社会科や家庭科等教科と関連した食育の実施や、様々な媒体を活用して、食材の流通や、勤労の尊さについて学ぶ機会を設定し、感謝の気持ちを、育む取り組みを広げていきたいと考えていますので、皆さんも応援してください。よろしくお願いします。

蓮沼教育長

次に、不登校に対する支援内容をどのように広めるかのご質問です。

様々な事情で学校に登校できない生徒が適切に支援を受けられることは重要であり、当然の権利でもあります。「江戸川区子どもの権利条例」の中でも、自分らしく成長できること、最も良いことを考えてもらうことができることが明記されています。

学校は悩みを抱える生徒やその保護者へ、学校以外の居場所となりうる学校サポート教室や、ユースサポート、フリースクールの案内等の情報を直接提供しています。

また不登校支援についての情報は、リーフレットや区のホームページ、学校からの配布資料等によってお知らせしています。現在、先ほども出ておりましたがタブレットを使ったオンライン授業等、様々な形で学校社会と繋がる方法があります。

これからも、新たな方法を検討していくとともに、情報を必要とする人には、学校を通して積極的に提供し、誰1人取り残さないという覚悟を持って支援していきます。

ですがこの問題で、何よりも大切なのは、今不登校となっている、皆さんの友達の学校に行けない状況をきちんと理解しつつ、本当は誰でも学校に行きたいという気持ちを抱いているとの受けとめです。

実は今年の夏休み、学校サポート教室に通っている生徒と、茨城県城里町の自然体験宿泊教室に私も参加して、一緒に生活をともにする中で、残念ながら友達と人間関係でつまずき、登校できていない中学生の話を書きましたが、やはり本音では学校に行きたいと話してくれました。

いじめゼロ宣言をうたっている学校もありますが、一人ひとりの良さや違いを認めあい互いに尊重し、誰もが明日の登校を楽しみに思える学校を築いていくことが、不登校問題の一番の解決策であり、皆さんにはぜひそういう気持ちを持って日々の学校生活を過ごしてほしいと願っています。

蓮沼教育長

最後に、生徒、障害者、高齢者の方と交流する場を多く、との質問です。

様々な立場の人と関わり、理解し合うことはとても重要であり「ともに生きるまち」を目指す江戸川区として、そのように考える中学生がいることを大変喜ばしく思います。

コロナも落ち着き、学校ではそれぞれの教育計画に基づいて、地域の高齢者の自宅や福祉施設を訪問したり、学校に高齢者の方、障害者の方を招いて交流したりしています。

今皆さんが使っている技術家庭の教科書、家庭分野の中の62ページ、これ使ってますよね。62ページ高齢者との関わりという単元で、江戸川区の高齢者から体験談を聞く中学生、通称ジュニア訪問員と呼ばれていますけども、その活動が写真つきで紹介されています。見たことある人いますか。手を挙げてくれている人いますね。まだ見てない人はこれから見てくださいね。

また、パラリンピックに出場した選手を学校に招待し交流している学校も多数あります。私がかつて勤務していた中学校でも、生徒会が呼びかけ、視覚障害者マラソン大会にボランティアとして参加したり、特養ホームに吹奏楽の出前演奏を行ったり、車椅子の掃除をしたり、将棋をしながら、高齢者の方の昔話を聞いたり等、障害のある方や高齢者との交流を積極的に行っていました。そこで出会った人達からの感謝の言葉で、自分も人の役に立てる、との自己有用感がとても高まったようです。

最近でも、松江第五中学校の生徒さんが学校だより等のお手紙にメッセージを添えて地域の町会長さんや民生児童委員の方々の自宅に配達している例もあります。

これからも中学生の皆さんには、学校内にとどまらず、地域も含めた様々な場面や機会を通し、障害のある方や高齢者の方々等、色々な人と関わり、共生社会の中で自らの感性を養ってほしいと考えています。